

教育 いちかわ

第46号
編集発行
市川市教育委員会
電話 0473(34)1111(代)

市川市で推進している「心の教育」に、「美しい言葉の教育」を提唱したいと思ひます。

心が先か、言葉が先かは、議論の在るところでしょう。心にもない言葉を戒める名言は、古来、数多く残されていゝます。

「公言にも、徳ある者は必ず言あり、言ある者は必ずしも徳あらず。」と記してあります。

しかし、心が言葉によって磨かれることもまた、間違ひのないことと考へます。

海外の日本人学校で、「両親に、学校への要望をお尋ねした

時、「先生に対する敬語の使い方がよく教えて欲しい」との答えがありました。

「日本から派遣されて来る先生には、生徒と友達であるかのような言葉使いをする人がある。教師との間で、年長者に対する



心の教育は美しい言葉から

獨協学園理事長(元文部次官)

木田 宏

日本では、仮に先生が生徒に對

等の言葉使いを認めていても、家庭の中や地域社会の人々との日常生活のなかで、年長者や大人に對する言葉使いを身に付けさせることが出来る。」

「しかし、こうして外国で生活していると示唆されています。新人類と言われる今日の高校生でも、「友達と話す時と、年長と話す時では、言葉使いが違いますか」という問いに對して、八十八%まで、「違う」と答えています。これが

日本社会の人間関係であり、日本文化の基調でありま

この日本の文化と人間関係を、美

しい言葉によつて、豊かなものに築いて行きたいものであります。心の豊かさ、心の美しさが、豊かな美しい言葉に依つて示されてこそ、家庭も社会も、心豊かになると思ひます。(宮久保在任)

敬語の使い方を、身に付けるように指導して貰ひたい。」
この両親の要望は、言葉が環境に規制されながら、なお言葉が人を育て、環境や人間関係を培つていく力を持つていゝことになると思ひます。(宮久保在任)